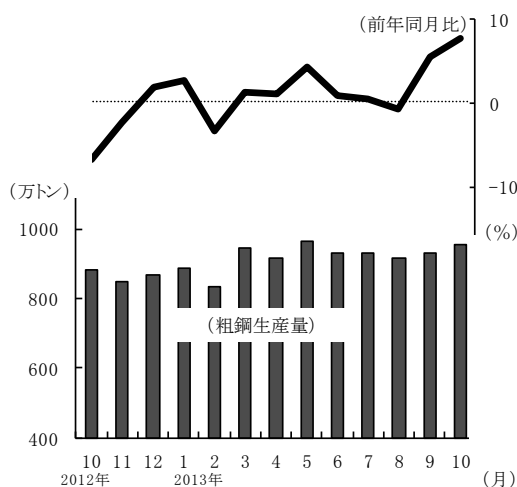


土木や自動車向けの内需が好調な上、円高修正による鋼材の輸入減なども加わって生産回復が続いている。炉別生産では、転炉鋼が前年同月比7.7%増の731万7,000トンで2カ月連続増、電炉鋼も同7.7%増の220万1,000トンで3カ月連続増となった。鋼種別では、普通鋼が7.1%増の738万トンで2カ月連続増、特殊鋼が9.9%増の214万トンで4カ月連続増となった。1～10月の累計粗鋼生産量は前年同期比2%増の9,195万トンで、10月の生産水準が年末まで続けば、2013年の粗鋼生産は1億1,070万トン前後に達する見込みである。

財務省が発表した10月の鉄鋼貿易統計によると、輸出（全鉄鋼ベース）は前年同月比1.6%減、前月比5.1%減の327万6,000トンとなり、9月に続き2013年の月間輸出量で最低を更新した。タイなど新興国の景気後退、内需の増加によるスポット輸出の抑制などが影響した。当面の間、内需増加による高炉メーカーの国内生産余力は少なく、輸出数量は現在の300万トン台前半の水準が続く公算が大きい。

一方、全鉄鋼輸入は前年同月比8.0%減の67万6,300万トンとなり、2カ月連続しての前年割れとなった。主要な輸出先別では、アジアが同2.5%減の257万8,000トンで、うち中国は日系自動車の生産回復などから11.0%増の53万3,000トンとなり、NIE'sは2.0%減の94万1,000トン、ASEANは4.7%減の102万6,000トンとなった。その他、中東は契約時のラマダンの影響もあり21.5%減の12万トン、米国は23.3%増の18万1,000トンとなった。一方、相手国別輸入では、アジアが9.1%減の57万6,400トンで、うち中国が16.7%減の9万9,400トン、NIE'sが7.9%減の44万7,900トン、ASEANが57.8%増の1万2,500トンとなった。

図－1 国内粗鋼生産の月次推移



◆10～12月期粗鋼生産計画、6年ぶり高水準

鉄鋼各社が策定した10～12月の粗鋼生産計画を経済産業省が集計したところ、粗鋼生産は前期実績見込み比76万トン、2.7%増の2,848万トンとなり、10～12月期としてはリーマン・ショック前の2007年以来、6年ぶりに2,800万トンを上回る。また、前月に経済産業省が策定した粗鋼需要見通し(2,797万トン)より51万トン増加した。鋼材生産計画は、普通鋼1,946万トン(前期比3.3%増)、特殊鋼532万トン(同4.3%増)の計2,478万トン(同3.5%増)となる。また、前年同期比では11.1%増と2ケタ増となる。生産活動を押し上げる最大の要因は建設関連需要の増加で、公共工事の発注を受けて、鋼矢板やH形鋼、小形棒鋼などの関連鋼材が好調に推移する見込みとなっている。

こうした状況を反映して電炉メーカーの生産は前期比 10%以上増加する見通しとなっている。一方、高炉メーカーも自動車関連需要が好調なほか、前期で減少した半製品在庫を積み増す計画があり、3%程度増加する見通しである。この計画通り生産されれば、2013 暦年の粗鋼生産は前年比 3.4%増の 1 億 1,091 万トンと 5 年ぶりに 1 億 1000 万トンに達する。

◆高炉大手 3 社、業績改善

新日鉄住金、JFE ホールディングス、神戸製鋼所の高炉大手 3 社の 2013 年度上期業績と通期見通しが発表された。4～9 月期の連結経常利益は、新日鉄住金が 1,736 億円、JFEHD が 743 億円、神戸製鋼所が 431 億円といずれも前回見通しより上方修正された。4～9 月期の原料コストは為替影響もあり円ベースで上昇し減益要因となったが、国内向け販売価格の値上げや輸出代金の円手取りの増額などが増益要因となった。また、在庫評価益もプラスに働いた。

2013 年度通期の連結経常利益見通しは、新日鉄住金が前期比 3.9 倍の 3,400 億円（旧新日鉄と旧住金との単純合算 877 億円との比較）、JFEHD が 3.3 倍の 1,700 億円、神戸製鋼所は黒字転換（前期は経常赤字 181 億円）して 700 億円となっている。通期業績見通しによる ROS（売上高経常利益率）は、新日鉄住金が 6.2%、JFEHD が 4.6%、神鋼が 3.8%と業績改善が目立っている。

◆新日鉄住金、製鉄所組織を統合再編

新日鉄住金は 10 月 30 日、中期経営計画に掲げた組織・業務運営の改善の一環として、製鉄所組織の統合・再編成を実施すると発表した。2014 年 4 月 1 日付けで八幡製鉄所と棒線事業部小倉製鉄所を「八幡製鉄所」に、和歌山製鉄所と建材事業部堺製鉄所を「和歌山製鉄所」に、君津製鉄所と鋼管事業部東京製造所を「君津製鉄所」に統合・再編成する。今回の統合により、「製鉄所組織の一体化による業務運営の効率化」、「人員の採用・配置・育成面における人材基盤の強化」、「技術・技能・ノウハウなどの共有化による業務レベルの向上や、新たな視点での連携施策の検討・実行の加速化」などを進め、製鉄事業競争力の更なる強化を図るとしている。

◆2013 年世界粗鋼生産、過去最高更新の見通し

世界鉄鋼協会（WSA）のまとめによると、10 月の世界（65 カ国）粗鋼生産は前年同月比 6.6%増の 1 億 3,426 万 2,000 トンとなり 13 カ月連続で前年同月実績を上回った。前月比では 1.4%増となり 2 カ月連続で増加した。前月比では中国は 2 カ月連続で減少し、中国以外は 2 カ月連続で増加した。10 月の 65 カ国の日産量は前月比 1.9%減と 2 カ月ぶりに減少し、中国は 3.7%減と 3 カ月ぶりに減、中国以外も 0.1%と微減ながら、2 カ月ぶりに減少した。10 月の日産量は、新興国では韓国が前月比 10.9%増と 2 カ月連続で増え、インドは 3.4%増と 2 カ月連続の増加に対して、ブラジルは 1.8%減と 4 カ月ぶりに減少した。先進国では EU27 は 0.4%減、日本は 0.8%減とそれぞれ 2 カ月ぶりに減り、北米は 0.8%減と 4 カ月ぶりの減となった。

1～10 月の 65 カ国の粗鋼生産累計は、前年同期比 3.2%増の 13 億 2,100 万トンとなり、年率換算すると前年比約 6,500 万トン増の 15 億 8,600 万トンで、過去最高を更新する可能性が高い。中国の累計生産量を年率換算すると前年比約 6,700 万トン増の 7 億 8,300 万トンとなる。 □